

C-1 指導案

(1) 構成法「起承転結」を意識した感想文の書き方(2年「ゼブラ」「字のないはがき」光村図書)

- ① 小単元 感想文を書こう
- ② 本時のねらい
深まった感想を文章にまとめることができる。
「起承転結」の構成パターンに慣れる。
- ③ 評価規準
メモの交換によって深まった感想を構成を工夫しながら文章にまとめている。(書く力)
- ④ 準備
実物投影機, ワークシート
- ⑤ 学習活動と評価

段階	時間	学習内容・活動	評価場面・評価方法および 支援(・)
導 入	5	1. 前時までの活動を振り返る。 2. 本時の学習の説明を聞く。	・読みの視点について確認する。 ・起承転結のパターンについて説明し, 文章を構成するように促す。
		小説「ゼブラ」, 随筆「字のないはがき」のどちらかの感想を, 前時までの感想メモを参考にしながら文章にまとめよう。	
展	40	3. 文章構成を考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">メモの交換によって深まった感想を, 構成を工夫しながら, 文章にまとめている。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">起承転結の部分にあたる括弧をワークシートに書き込んでいるかで評価する。</div> <div style="margin-top: 5px;"> <small>C</small>への手だて シートへの記入状況を見て, 起承転結を使ったまとめ方を助言する。 <small>A</small>とするキーワード ・「転」の部分に適切な内容を書いているか。 ・基本的な構成をふまえながら, 独自の工夫がなされているか。 </div>
開		4. 生徒作品を参考にしながら, 起承転結の構成法について理解する。	・実物投影機で作品を提示し, 構成のまとまりについて全体で考えさせる。 ・完成していない生徒は確認を支援として作品を仕上げさせる。
まとめ	5	5. 本時の学習で学んだ事柄について, ノートに記録する。	・構成の基本パターンである「起承転結」の構成は, 文章を書くさまざまな場面で参考になることを知らせる。

⑥ 配慮事項

ア 評価にあたっての留意点

本時の内容は文章作成という, きわめて個人的な学習活動であるが, 実物投影機を使い, 全体に提示することによって, 具体的なイメージをつかませたい。また, 個々の評価については, 構成の括弧を明記させることで, 思考の過程が捉えられるようにする。

イ 評価から次の指導へ生かす手だて

Aと評価した生徒については, 起承転結の構成を基本としつつ, さらにより効果的な文章表現を目指すためのことばかけをしていく。また, 学習の途中段階でCと評価した生徒に対しては, 模範的な作品を示しながら, 構成パターンに慣れさせ, 作品完成を目指す。そして今後の学習活動の中でも, 折にふれ基本的な文章構成について説明を繰り返す。

(2) 構成法「双括式」を意識した報告文の書き方（3年「報告文を書こう」光村図書）

- ① 小単元 報告文を書こう
- ② 本時のねらい
 - ・言葉について調査し、自分の考えを報告文にまとめることができる。
 - ・双括法の構成パターンに慣れる。
- ③ 評価規準
調査内容をもとに、双括式の構成法で自分の考えをまとめることができる。（書く力）
- ④ 準備
ワークシート
- ⑤ 学習活動と評価

段階	時間	学習内容・活動	評価場面・評価方法および 支援（・）
導 入	5	1. 前時までの活動を振り返る。 2. 本時の学習の説明を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・各班で、調査した内容について確認する。 ・双括式のパターンについて説明し、文章を構成するように促す。
		「日本語は乱れているか」をテーマに、アンケート結果を利用して双括式の形で報告文を書こう。	
展 開	40	3. 文章構成を考える。 4. 各自の進行状況を確認し、次時で完成させるための目安を持つ。	<p>データをグラフ化することで見えてきた特徴をもとに、構成を工夫しながら文章にまとめている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自分の考え→根拠→考察→自分の考えの部分にあたる括弧を書き込んでいるかで評価する。 </div> <p>☐への手だて シート上部に記載された構成のガイドを参考に、まとめ方を助言する。</p> <p>☐とするキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を的確に捉えているか。 ・基本的な構成をふまえながら、独自の工夫がなされているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒作品の中から根拠のあげ方「以下の三点」、考察の進め方「反論を予想した考察」などに着目し、論理的な書き方を意識させる。 ・現段階で☐と評価される生徒については、個別に次時の目安を確認し、文章完成に向けての意欲を持たせる。
まとめ	5	5. 構成法について学習したことをノートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・双括式の他に頭括式、尾括式も含めて、これら構成法は基本的なパターンであり、論理的な文章を書く上で、有効であることを知らせる。

- ⑥ 配慮事項
 - ア 評価にあたっての留意点
アンケート調査については、データ処理の時間を短縮し、構成法に則った文章を書くことに評価的を絞る。そのため、あらかじめ数値を入力するだけでグラフ化できるソフトを準備した。また、2年時に学習した「起承転結」の構成法を思い出しながら、今回は論

理的な文章の構成法について学習することを説明し、学習の位置づけを図る。

イ 評価から次の指導へ生かす手だて

本時の評価場面を通し、Aと評価した生徒に対しては、根拠のあげ方、反論予想の仕方などについて、妥当性を考えさせる。そしてより効果的な表現ができないか、文章を練り上げる姿勢を身につけさせたい。また、Cと評価した生徒については、まず、構成方法に則って文章が書けたか自己評価させ、双括式の書き方に慣れることで、書くことに対する自信を持たせたい。

全体的な評価の方法として、定期テストで書く力を評価する問題を設定し、定着率を計る。